

コロナと学童保育 子どもの視点から考える

～ コロナのなかで学童保育の生活をどう進めるか ～

パネラー 飯能市原市場かたくりクラブ指導員・河野伸枝

<前半報告> 10分～15分

1・コロナ禍の中で指導員が子どもの立場で何を大事にしてきたか？

*コロナ感染予防の対策（手洗い、うがい、消毒、換気、ソーシャルディスタンス、マスク着用）
は、もちろんのこと

①子どもの抱えるコロナ感染への不安や緊張が垣間見えたこと

- ・実践「胸が苦しい・・・」とコロナ感染への不安な思いをのぞかせた2年女子
- ・実践「ひっきりなしに手を何度も何度も洗いに行く」発達障害児の3年男子
→子どもたちの緊張や不安を和らげる関わり
「せめて、学童では、自分のやりたいことを保障しつつ、ゆったり、たっぴり、関わりあう」

②長い学校休校を終えて登校が始まる時

- ・実践「もっと学校の休みが続けばいいのに」「コロナさまざまだな」5年男子
- ・持ち物が増える（マスクに水筒）、食事中に話しているのは「おいしい」の4文字のみ
- ・宿題がいきなり増え、「宿題、めんどくせ～」と言いながら仲間と宿題を楽しむ
→子どもたちは我慢していたおしゃべりが止まらない（たっぴり思いを伝え合う）

③保護者の抱える不安に心を寄せる

- ・保護者の要求も様々「室内でのマスク着用のルールを学童でも徹底してほしい」
- ・自粛生活の中で育児休業中の4人子育てをしている母親が「もう、限界！」と泣きつく
→子どもたちの学童での生き生きした姿、関わりあいながら育ちあう様子を伝え続ける

④子どもたちは、育ちゆく中で様々な葛藤を乗り越えなければならない場面もある。

- ・実践「学校に行きたくない・・・」とボヤいた3年男子の背中を押してくれた3年女子
仲間（人）とのつながりに支えられ、人への信頼を重ねていく関わりは、育ちの土壌となる
人との関係が分断されようとしている今こそ、人と人のつながりの糸を丁寧に紡ぐこと
○子どもたちの内面の変化を伝え合い、子ども理解を深め合う。
・保護者と学校との連携の大切さ